

報告

高知大学医学部看護学科看護学生の
「看護職に必要なコミュニケーション力・表現力・協働実践力」到達度

山脇京子 岡田久子 小松輝子 齋藤美和 坂本雅代

石上悦子 吉村澄佳 高橋永子

高知大学教育研究部医療学系看護学部門

The student achievement levels of “Communication, expression, and cooperative work skills” at Nursing Course of Kochi Medical School, Kochi University

Kyoko Yamawaki Hisako Okada Teruko Komatu Miwa Saito Masayo Sakamoto

Etuko Ishigami Sumika Yoshimura Eiko Takahashi

Kochi University Research and Education Faculty Medicine Unit, Nursing Sciences cluster

要 旨

本学科では、看護職に必要な「コミュニケーション力・表現力・協働実践力」の育成に取り組んでいる。今回、これら3つの能力の到達状況を明らかにし教育への基礎資料を得ることを目的に、1年生から4年生を対象として、学生の自己評価に関する調査を実施した。その結果、概ね3つの力の基本となる項目は到達されていた。今後の課題は、基礎的な能力を基盤とした応用力を身に付けさせることである。

キーワード：コミュニケーション力、表現力、協働実践力、チェックリスト、到達度

Abstract

At the Nursing Course we strive for all students' acquisition of “communication, expression, and cooperative work skills” required for nursing professions. In this study, we conducted a survey on nursing students' self-evaluation, aiming to identify achievement levels of three skills. As the results, the items that were basic of three abilities were achieved. It is a further task to develop the applicability based on the basic abilities.

Keyword: Skills of communication Skills of expression Skills of cooperative work Checklist achievement level

【緒 言】

本学科では、平成22年度高知大学第2期中期目標・中期計画教育に定めた目標（社会の様々な人々と協働して活躍する上で、自文化及び異文化を共に認めることのできる国際性を有し、他人の意見を理解し自らの意見を主

張できるコミュニケーション力を有する人材を育成する）に即して、「看護職能力達成教育システム開発検討会」が設置され、必要とされる能力について検討した。その結果、平成23年3月に「看護職に必要なコミュニケーション力・表現力・協働実践力」チェックリストが完成し、4月から学生による自己評価

受付日：2014年7月4日 受理日：2014年9月24日

を開始した。自己評価方法は、当初は紙媒体であったが、2学期からは、高知大学総合教育センター・大学創造部門 EICT 部会の協力を得て、オンライン学習支援システムでの入力が可能となった。

本プロジェクトでは、毎年システムで入力されたデータを集計・分析し、検討を重ねている。平成24年に実施された初回の調査では、コミュニケーション力の到達率が67.4%、表現力・協働実践力が、50%以下であった。その後、到達学年の変更や、学生の自覚を促すために学生へのフィードバック、教員会議や実習連絡会で情報の共有化を図り、授業の改善に活用してきた。その結果、これらの能力は、学年を重ねるごとに到達率の上昇がみられた。プロジェクトは軌道にのり、平成26年度で5年が経過し、残り1年となったことから、振り返りを行った。

【用語の定義】

1. コミュニケーション力：「患者・家族及び関連多職種との問題解決に向けた協働を進める上で不可欠な基本的な態度に基づいた言語的、非言語的な作用を通して自己の成長発達に繋げていく能力」とした。
2. 表現力：「看護職が患者・家族及び関連多職種との問題解決に向けて、自ら考えたり、感じたりしたことを話す力・書く力・伝える力を統合しプレゼンテーションできる力」とした。
3. 協働実践力：「看護の対象の健康に関する問題解決に向けて、ヘルスケアチームの一員として共に協力して共通の課題解決に向けて取り組むことのできる能力」とした。

【方 法】

1. 調査対象者：平成25年度高知大学医学部

看護学科1年生59名、2年生60名、3年生63名、4年生64名であった。

2. 調査方法：学生が各自入力したオンライン学習支援システムからデータ収集を行った。評価項目は、「コミュニケーション力」70項目(表2)、「表現力」50項目(表3)、「協働実践力」27項目(表4)である。到達レベルは80%以上、80%未満～50%以上、50%未満～20%以上、20%未満の4段階とし、学生が自己評価を行った。
3. 調査期間：データ収集期間は平成26年2月1日から3月31日であった。
4. 分析方法：学年別、到達すべき目標項目の単純集計を行った。
5. 倫理的配慮：本データは、中期目標の教育資料として蓄積された学年ごとの集約データの二次的活用であり、データは、個人が特定されない形で単純集計を行った。

【結 果】

1. 学年別、コミュニケーション力・表現力・協働実践力の回答者数・回収率
1年生のコミュニケーション力・表現力・協働実践力の回答者数・回収率は、59名・100%であった。2年生は、コミュニケーション力・協働実践力が51名・85%で、表現力は49名・81.7%であった。3年生はコミュニケーション力と協働実践力は59名・93.7%で、表現力は57名・90.5%であった。4年生は3つの能力とも40名・62.5%であった(表1)。

表1 学年別回答者数・回収率

学年	N	コミュニケーション力		表現力		協働実践力	
		n	%	n	%	n	%
1年	59	59	100	59	100	59	100
2年	60	51	85	49	81.7	51	85
3年	63	59	93.7	57	90.5	59	93.7
4年	64	40	62.5	40	62.5	40	62.5

2. コミュニケーション力・表現力・協働実践力の到達状況

看護職に必要なコミュニケーション力は、【基本的な態度】【言語的コミュニケーション】【非言語的コミュニケーション】【自己の成長・発達】【スタッフに対するコミュニケーション】で構成された70項目である。また、看護職に必要な表現力は、【基礎的な力】【話す力】【書く力】【伝える力】【企画・立案力】【協議・調整力】【事業展開力】で構成された50項目である。そして、看護職に必要な協働実践力は、【学内演習において課題解決に向けてグループで協力する能力】【ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力】で構成された27項目である。これら3つの能力について、1年生から4年生が各学年末に自己評価を行った。その結果、各学年に到達すべき目標項目において、到達レベル80%以上であると自己評価した学生の割合を到達率とし、到達率の高い項目（以降上位項目と記す）および低い項目（以降下位項目と記す）について以下に示す。

1) 看護職に必要なコミュニケーション力（表2）

1年次に到達すべき目標9項目の平均到達率は27.3%であった。上位項目は、「自己紹介」35.6%、「笑顔で挨拶」33.9%、「身だしなみ」30.5%で、どの項目も50%に満たなかった。下位項目は、「謙虚に学ぶ姿勢」16.9%、「相手の尊重」22.0%、「尊重した言葉」23.7%であった。

2年次に到達すべき目標19項目の平均到達率は43.0%であった。上位項目は、「聞く態度」68.6%、「心を傾けて聴く」58.8%、「最後まで聞く」58.8%、「適切な言葉使い」56.9%、「共感する態度」54.9%、「プライバシーの保持」54.9%、「簡単な受容」52.9%であった。下位項目は、「会話の角度」23.5%、「理解できる言葉」25.5%、「座席位置」27.5%、「自

己を大切にする」29.4%、「相手の思い」29.4%であった。

3年次に到達すべき目標33項目の平均到達率は55.8%であった。33項目中20項目の到達率が、50%以上であり、上位項目は、「一緒に悩む」78%、「考えの支援」78%、「思いに目を向ける」76.3%、「TPOにあった言葉」74.6%、「感情の受け止め」74.6%であった。下位項目は、「わかりやすい説明」35.6%、「指導者への関わり」39.0%、「沈黙の理解」39.0%であった。33項目以外の1・2年次に到達すべき目標項目では、26項目中13項目が80%以上であった。

4年次に到達すべき目標9項目の平均到達率は57.8%であった。上位項目は、「報告の実施」77.5%、「苦手意識」75%、「緊張をほぐす」62.5%、「相手を理解した行動」62.5%、「問題の要約」55.0%であった。下位項目は、「考えの伝達」40.0%、「スタッフへの関わり」42.5%であった。9項目以外の1から3年次に到達すべき目標項目では、61項目中36項目が80%以上であった。

2) 看護職に必要な表現力（表3）

1年次に到達すべき目標3項目の平均到達率は14.7%で、「丁寧な文字」20.3%、「誤字脱字」18.6%、「役割責任」5.1%であった。

2年次に到達すべき目標15項目の平均到達率は25.4%であった。上位項目は、「発言の理解」64.6%、「気持ちの察知」50.0%、「自己に誠実」35.4%であった。下位項目は、「意見の表現」6.3%、「文章構成」10.4%、「論点を明確」14.6%であった。

3年次に到達すべき目標17項目の平均到達率は37.3%であった。上位項目は、「対等な態度」64.1%、「相手に合わせた伝達」61.5%、「自己責任」56.4%であった。下位項目は、「意見の折り合い」15.4%、「役割の明確化」20.5%、「テーマの発見」20.5%であった。17項目以外では、2年次に到達すべき目標項目

表3 H25 「表現力」集計結果

数字は%

設 問	1年生59人					2年生48人					3年生39人					4年生31人					
	到達学年	未回答	80%以上	80%未満～50%以上	50%未満～20%以上	20%未満	未回答	80%以上	80%未満～50%以上	50%未満～20%以上	20%未満	未回答	80%以上	80%未満～50%以上	50%未満～20%以上	20%未満	未回答	80%以上	80%未満～50%以上	50%未満～20%以上	20%未満
気持ちの察知	2-1	0.0	8.5	44.1	39.0	8.5	0.0	50.0	37.5	10.4	2.1	0.0	61.5	38.5	0.0	0.0	3.2	87.1	9.7	0.0	0.0
情報収集力	2-1	0.0	5.1	25.4	54.2	15.3	0.0	31.3	50.0	16.7	2.1	0.0	46.2	51.3	2.6	0.0	0.0	77.4	22.6	0.0	0.0
判断力	2-1	0.0	3.4	30.5	45.8	20.3	0.0	22.9	54.2	20.8	2.1	0.0	43.6	48.7	7.7	0.0	0.0	67.7	32.3	0.0	0.0
活用力	3-1	0.0	0.0	25.4	54.2	20.3	0.0	16.7	58.3	22.9	2.1	0.0	35.9	51.3	12.8	0.0	0.0	48.4	51.6	0.0	0.0
評価	3-1	0.0	3.4	32.2	45.8	18.6	0.0	20.8	56.3	20.8	2.1	0.0	33.3	56.4	10.3	0.0	0.0	54.8	45.2	0.0	0.0
アイデアの創造	3-1	1.7	1.7	16.9	49.2	30.5	0.0	20.8	29.2	45.8	4.2	0.0	28.2	56.4	10.3	5.1	0.0	35.5	51.6	12.9	0.0
主題内容の伝達	2-1	0.0	5.1	22.0	50.8	22.0	0.0	16.7	62.5	18.8	2.1	0.0	43.6	35.9	17.9	2.6	0.0	64.5	35.5	0.0	0.0
論点を明確	2-2	3.4	3.4	25.4	47.5	20.3	0.0	14.6	45.8	35.4	4.2	0.0	33.3	48.7	15.4	2.6	0.0	32.3	67.7	0.0	0.0
質問意見	2-2	1.7	5.1	33.9	35.6	23.7	0.0	20.8	33.3	41.7	4.2	0.0	38.5	43.6	15.4	2.6	3.2	45.2	41.9	9.7	0.0
相手に合わせた伝達	3-1	0.0	10.2	27.1	44.1	18.6	0.0	20.8	60.4	16.7	2.1	0.0	61.5	30.8	7.7	0.0	0.0	74.2	22.6	3.2	0.0
自己に誠実	2-1	0.0	8.5	30.5	45.8	15.3	0.0	35.4	47.9	14.6	2.1	2.6	56.4	33.3	7.7	0.0	0.0	83.9	16.1	0.0	0.0
率直な気持ち	2-2	1.7	5.1	39.0	33.9	20.3	0.0	20.8	47.9	29.2	2.1	0.0	41.0	53.8	2.6	2.6	0.0	61.3	38.7	0.0	0.0
対等な態度	3-2	1.7	15.3	35.6	33.9	13.6	2.1	39.6	43.8	12.5	2.1	2.6	64.1	30.8	2.6	0.0	0.0	80.6	19.4	0.0	0.0
自己責任	3-2	1.7	5.1	35.6	42.4	15.3	0.0	43.8	41.7	12.5	2.1	2.6	56.4	30.8	10.3	0.0	0.0	77.4	19.4	3.2	0.0
丁寧な文字	1-1	0.0	20.3	30.5	32.2	16.9	0.0	45.8	45.8	6.3	2.1	0.0	53.8	41.0	5.1	0.0	0.0	93.5	3.2	3.2	0.0
誤字脱字	1-1	0.0	18.6	27.1	33.9	20.3	0.0	47.9	41.7	8.3	2.1	0.0	48.7	43.6	7.7	0.0	0.0	71.0	25.8	3.2	0.0
段落構成	2-1	0.0	6.8	32.2	44.1	16.9	0.0	27.1	56.3	12.5	4.2	0.0	35.9	53.8	10.3	0.0	0.0	74.2	22.6	3.2	0.0
テーマの発見	3-1	0.0	3.4	25.4	49.2	22.0	2.1	16.7	56.3	18.8	6.3	0.0	20.5	59.0	20.5	0.0	0.0	58.1	41.9	0.0	0.0
テーマの理解	2-1	0.0	3.4	30.5	45.8	20.3	2.1	18.8	58.3	14.6	6.3	0.0	17.9	64.1	17.9	0.0	0.0	54.8	41.9	3.2	0.0
思考の組み立て	3-2	1.7	1.7	15.3	55.9	25.4	0.0	14.6	52.1	25.0	8.2	0.0	33.3	43.6	20.5	2.6	0.0	35.5	61.3	3.2	0.0
一貫性のある文章	3-1	0.0	5.1	20.3	47.5	27.1	2.1	10.4	54.2	20.8	12.5	0.0	23.1	59.0	12.8	5.1	3.2	25.8	67.7	3.2	0.0
文章構成	2-1	0.0	0.0	20.3	49.2	30.5	2.1	10.4	47.9	27.1	12.5	0.0	12.8	64.1	23.1	0.0	0.0	29.0	67.7	3.2	0.0
緊張の緩和	4-1	0.0	6.8	23.7	39.0	30.5	0.0	16.7	45.8	29.2	8.3	5.2	28.2	38.5	23.1	5.1	3.2	41.9	51.6	3.2	0.0
準備	3-1	0.0	1.7	28.8	50.8	18.6	0.0	16.7	62.5	16.7	4.2	0.0	25.6	56.4	17.9	0.0	0.0	67.7	32.3	0.0	0.0
説明の要求	3-1	0.0	6.8	30.5	45.8	16.9	0.0	27.1	47.9	22.9	2.1	0.0	38.5	48.7	12.8	0.0	0.0	61.3	35.5	3.2	0.0
意見の表現	2-1	0.0	1.7	27.1	44.1	27.1	0.0	6.3	39.6	47.9	6.3	0.0	43.6	38.5	12.8	5.1	0.0	48.4	41.9	9.7	0.0
発言の理解	2-1	0.0	22.0	44.1	30.5	3.4	2.1	64.6	25.0	8.3	0.0	0.0	82.1	15.4	2.6	0.0	0.0	90.3	9.7	0.0	0.0
良い意見	4-1	0.0	5.1	40.7	32.2	22.0	2.1	22.9	58.3	14.6	2.1	2.6	30.8	59.0	5.1	2.6	0.0	61.3	32.3	6.5	0.0
自分の言葉	2-1	0.0	6.8	28.8	45.8	18.6	0.0	18.8	52.1	25.0	4.2	0.0	38.5	51.3	7.7	2.6	0.0	64.5	35.5	0.0	0.0
相手との結びつき	3-1	0.0	3.4	25.4	47.5	23.7	0.0	18.8	52.1	25.0	4.2	0.0	41.0	48.7	10.3	0.0	0.0	64.5	35.5	0.0	0.0
配慮した意見	3-1	0.0	8.5	32.2	37.3	22.0	2.1	20.8	54.2	18.8	4.2	2.6	43.6	48.7	5.1	0.0	0.0	80.6	16.1	3.2	0.0
違いを楽しむ	3-1	0.0	8.5	30.5	47.5	13.6	0.0	22.9	52.1	18.8	6.3	0.0	46.2	38.5	10.3	5.1	0.0	64.5	29.0	6.5	0.0
堂々と伝える	4-1	0.0	0.0	27.1	49.2	23.7	0.0	10.4	45.8	33.3	10.4	2.6	28.2	48.7	12.8	7.7	0.0	25.8	61.3	12.9	0.0
有効な時間	2-2	1.7	0.0	33.9	33.9	30.5	0.0	22.9	50.0	20.8	6.3	0.0	28.2	53.8	17.9	0.0	0.0	61.3	38.7	0.0	0.0
課題の明確化	4-1	0.0	1.7	33.9	42.4	22.0	2.1	14.6	56.3	22.9	4.2	5.2	28.2	56.4	7.7	2.6	0.0	58.1	41.9	0.0	0.0
問題の明確化	4-1	0.0	1.7	27.1	45.8	25.4	0.0	14.6	52.1	27.1	6.3	5.2	25.6	53.8	12.8	2.6	0.0	45.2	51.6	3.2	0.0
将来の展望	4-1	0.0	1.7	27.1	44.1	27.1	2.1	12.5	47.9	33.3	4.2	5.2	15.4	61.5	15.4	2.6	0.0	29.0	67.7	3.2	0.0
資源の探索	4-1	1.7	1.7	27.1	44.1	25.4	4.2	10.4	50.0	31.3	4.2	5.2	17.9	56.4	15.4	5.1	0.0	41.9	58.1	0.0	0.0
計画立案	4-1	0.0	1.7	22.0	42.4	33.9	0.0	10.4	47.9	37.5	4.2	5.2	17.9	64.1	7.7	5.1	0.0	38.7	61.3	0.0	0.0
関心理解	3-1	0.0	3.4	32.2	3.4	27.1	2.1	25.0	50.0	20.8	2.1	0.0	46.2	48.7	2.6	2.6	0.0	64.5	32.3	3.2	0.0
関係者選出	4-1	0.0	1.7	15.3	49.2	33.9	2.1	12.5	50.0	29.2	6.3	5.2	25.6	56.4	10.3	2.6	0.0	58.1	41.9	0.0	0.0
役割の明確化	3-1	1.7	0.0	20.3	49.2	28.8	2.1	12.5	50.0	27.1	8.3	0.0	20.5	64.1	15.4	0.0	0.0	51.6	48.4	0.0	0.0
各専門職への配慮	4-1	1.7	0.0	23.7	37.3	37.3	0.0	18.8	41.7	33.3	6.3	10.3	23.1	56.4	10.3	0.0	0.0	51.6	48.4	0.0	0.0
意見の折り合い	3-1	0.0	1.7	22.0	45.8	30.5	2.1	8.3	54.2	25.0	10.4	0.0	15.4	71.8	10.3	2.6	0.0	51.6	48.4	0.0	0.0
役割責任	1-2	0.0	5.1	27.1	45.8	22.0	0.0	20.8	45.8	22.9	10.4	0.0	51.3	41.0	7.7	0.0	0.0	64.5	35.5	0.0	0.0
資金見積み	4-1	10.2	1.7	3.4	39.0	45.8	8.3	4.2	27.1	37.5	22.9	7.7	5.1	46.2	25.6	15.4	0.0	35.5	41.9	19.4	3.2
協力者募集	4-1	10.2	0.0	8.5	39.0	42.4	10.4	2.1	35.4	33.3	18.8	7.7	12.8	51.3	25.6	2.6	0.0	41.9	41.9	16.1	0.0
事業運営	4-1	11.9	1.7	3.4	29.0	44.1	8.3	6.3	31.3	33.3	20.8	7.7	5.1	61.5	15.4	10.3	0.0	38.7	41.9	19.4	0.0
対処	4-1	10.2	1.7	5.1	42.4	40.7	8.3	4.2	39.6	25.0	22.9	7.7	23.1	48.7	12.8	7.7	0.0	29.0	61.3	9.7	0.0
報告書作成	4-1	10.2	1.7	18.6	35.6	33.9	8.3	12.5	39.6	16.7	22.9	7.7	7.7	66.7	10.3	7.7	0.0	45.2	45.2	9.7	0.0

「発言の理解」82.1%であった。

4年次に到達すべき目標15項目の平均到達率は42.8%であった。上位項目は、「よい意見」61.3%、「課題の明確化」58.1%、「関係者選出」58.1%であった。下位項目は、「堂々と伝える」25.8%、「将来の展望」29.0%、「対処」29.0%であった。15項目以外では、1年次に到達すべき目標項目「丁寧な文字」93.5%、2年次に到達すべき目標項目「気持ちの察知」

85.1%、「自己に誠実」83.9%、3年次に到達すべき目標項目「対等な態度」80.6%、「配慮した意見」80.6%であった。

3) 看護職に必要な協働実践力（表4）

1年次に到達すべき目標3項目の平均到達率は16.9%で、「信頼関係構築」22.0%、「問題解決」18.5%、「課題共有」10.2%であった。

2年次に到達すべき目標1項目では、「協働の理解」40.8%であった。

表4 H25 「協働実践力」集計結果

数字は%

設 問	到達学年	1年59人					2年49人					3年57人					4年40人				
		未回答	80%以上	80%未満~50%以上	50%未満~20%以上	20%未満	未回答	80%以上	80%未満~50%以上	50%未満~20%以上	20%未満	未回答	80%以上	80%未満~50%以上	50%未満~20%以上	20%未満	未回答	80%以上	80%未満~50%以上	50%未満~20%以上	20%未満
信頼関係構築	1-2	0.0	22.0	44.1	33.9	0.0	0.0	49.0	40.8	8.2	2.0	0.0	77.2	19.3	3.5	0.0	0.0	95.0	5.0	0.0	0.0
課題共有	1-2	0.0	10.2	54.2	33.9	1.7	0.0	53.1	38.8	6.1	2.0	0.0	77.2	22.8	0.0	0.0	0.0	92.5	7.5	0.0	0.0
問題解決	1-2	0.0	18.6	40.7	37.3	3.4	0.0	49.0	44.9	4.1	2.0	3.5	66.7	28.1	0.0	1.8	0.0	95.0	5.0	0.0	0.0
役割理解	4-1	1.7	3.4	27.1	39.0	28.8	0.0	16.3	57.1	22.4	4.1	5.3	42.1	43.9	7.0	1.8	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0
看護師理解	4-1	3.4	5.1	25.4	37.3	28.8	0.0	16.3	57.1	22.4	4.1	8.8	38.6	43.9	7.0	1.8	0.0	72.5	25.0	2.5	0.0
他職種理解	4-1	1.7	5.1	11.9	50.8	30.5	0.0	12.2	63.3	22.4	2.0	7.0	31.6	50.9	8.8	1.8	0.0	57.5	42.5	0.0	0.0
ヘルスケアチーム理解	4-1	3.4	3.4	15.3	44.1	33.9	0.0	18.4	44.9	32.7	4.1	7.0	28.1	49.1	14.0	1.8	0.0	57.5	37.5	5.0	0.0
法的範囲の理解	3-2	5.1	1.7	28.8	40.7	23.7	0.0	14.3	59.2	24.5	2.0	0.0	36.8	56.1	5.3	1.8	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0
委任業務の理解	3-2	5.1	3.4	22.0	35.6	33.9	0.0	10.2	53.1	30.6	6.1	0.0	38.6	54.4	5.3	1.8	0.0	67.5	30.0	2.5	0.0
委任業務の支援	3-2	5.1	3.4	33.9	39.0	18.6	0.0	12.2	53.1	32.7	2.0	0.0	42.1	54.4	1.8	1.8	0.0	77.5	22.5	0.0	0.0
委任業務の責任	3-2	5.1	3.4	39.0	30.5	22.0	0.0	18.4	61.2	14.3	6.1	0.0	45.6	49.1	3.5	1.8	2.5	75.0	20.0	2.5	0.0
協働の理解	2-2	5.1	6.8	28.8	33.9	25.4	0.0	40.8	38.8	14.3	6.1	0.0	61.4	38.6	0.0	0.0	0.0	82.5	15.0	2.5	0.0
ヘルスケアチーム尊重	4-1	3.4	5.1	23.7	42.4	25.4	0.0	18.4	55.1	20.4	6.1	7.0	47.4	40.4	5.3	0.0	0.0	72.5	27.5	0.0	0.0
ヘルスケアチーム連絡	4-1	3.4	8.5	25.4	39.0	23.7	0.0	20.4	49.0	22.4	8.2	8.8	40.4	47.4	3.5	0.0	0.0	77.5	22.5	0.0	0.0
ヘルスケアチーム構築	4-1	3.4	6.8	25.4	40.7	23.7	0.0	20.4	57.1	14.3	8.2	8.8	42.1	43.9	5.3	0.0	0.0	72.5	25.0	2.5	0.0
意思決定の協働	4-1	3.4	5.1	32.2	32.2	27.1	0.0	20.4	53.1	18.4	8.2	8.8	31.6	50.9	8.8	0.0	0.0	75.0	22.5	2.5	0.0
情報共有	4-1	3.4	3.4	27.1	40.7	25.4	2.0	26.5	55.1	10.2	6.1	10.5	45.6	38.6	5.3	0.0	0.0	77.5	22.5	0.0	0.0
計画立案の協働	4-1	3.4	3.4	23.7	39.0	30.5	4.1	22.4	51.0	16.3	6.1	8.8	26.3	49.1	12.3	3.5	0.0	75.0	22.5	2.5	0.0
計画実践の協働	4-1	3.4	3.4	23.7	32.2	37.3	4.1	10.2	65.3	12.2	8.2	10.5	28.1	45.6	12.3	3.5	0.0	67.5	30.0	2.5	0.0
実践評価の協働	4-1	3.4	5.1	22.0	33.9	35.6	6.1	12.2	59.2	14.3	8.2	8.8	29.8	43.9	10.5	7.0	0.0	67.5	27.5	5.0	0.0
組織理解	4-1	1.7	8.5	33.9	37.3	18.6	0.0	22.4	57.1	18.4	2.0	5.3	36.8	52.6	5.3	0.0	2.5	77.5	17.5	2.5	0.0
地域医療の理解	4-1	1.7	6.8	25.4	40.7	25.4	2.0	16.3	63.3	16.3	2.0	5.3	36.8	49.1	8.8	0.0	2.5	70.0	27.5	0.0	0.0
国内医療の理解	4-1	3.4	3.4	23.7	42.4	27.1	0.0	12.2	65.3	18.4	4.1	5.3	22.8	63.2	8.8	0.0	0.0	52.5	42.5	5.0	0.0
国際医療の理解	4-1	5.1	3.4	10.2	52.5	28.8	2.0	4.1	44.9	38.8	10.2	5.3	15.8	54.4	22.8	1.8	0.0	35.0	50.0	15.0	0.0
システムの理解	4-1	5.1	1.7	18.6	47.5	27.1	0.0	12.2	63.3	20.4	4.1	5.3	22.8	54.4	17.5	0.0	0.0	57.5	40.0	2.5	0.0
システムの動向	4-1	5.1	1.7	15.3	47.5	30.5	0.0	8.2	59.2	26.5	6.1	5.3	12.3	63.2	19.3	0.0	0.0	50.0	42.5	7.5	0.0
システムの連携	4-1	5.1	6.8	30.5	37.3	20.3	2.0	12.2	57.1	24.5	4.1	5.3	36.8	45.6	12.3	0.0	0.0	82.5	17.5	0.0	0.0

3年次に到達すべき目標4項目の平均到達率は40.8%で、「委任業務の責任」45.6%、「委任業務の支援」42.1%、「委任業務の理解」38.6%、「法的範囲の理解」36.8%であった。

4年次に到達すべき目標19項目の平均到達率は67.2%であった。上位項目は、「システムの連携」82.5%、「役割理解」80.0%であった。下位項目は、「国際医療の理解」35.0%、「システムの動向」50.0%、「国内医療の理解」52.5%、「システムの理解」57.5%、「他職種理解」57.5%、「ヘルスケアチーム理解」57.5%であった。19項目以外では、1年次に到達すべき目標項目「信頼関係構築」95.0%、「問題解決」95.0%、「課題共有」92.5%、2年次で到達すべき目標項目「協働の理解」82.5%、3年次で到達すべき目標項目「法的範囲の理解」80.0%であった。

【考 察】

1. 看護職に必要なコミュニケーション力

1年では、基礎実習終了時に調査を行ったにもかかわらず、9項目とも到達率は50%に満たなかった。このことより、核家族の中で育った現代の学生にとって、初対面の人とコミュニケーションを図ることの困難さが推測できる。「自己紹介」「笑顔で挨拶」「身だしなみ」「同じ目線」は、コミュニケーション力の基礎である。基礎実習で修得することが、その後の自信につながると考える。教員は、対象者との初回面会時に付き添い、学生のコミュニケーションを見守り・支援できる体制を整える必要がある。また、「相手の尊重」「謙虚に学ぶ姿勢」が低かった。これは「自他を尊重した話し方」の下位内容である。コミュニケーション力の未熟さが窺える。ヒューマンケアリングを基本とする看護職を目指す学生として、1年次から安心できる環境の中で、自己を表出できる機会を設ける、などの対策を講じる必要性が示唆された。

2年では、コミュニケーションの態度・姿勢に関連する項目の到達率が高いことから、

コミュニケーションの基本姿勢は形成されていると評価する。そこで、到達率の低い項目をみると、「座席の位置」や「会話の角度」であった。この項目は、コミュニケーションをとる際の、空間の中での距離の取り方に関する内容である。また、「自己を大切にすることが低かったことは、自己理解＝他者理解であり、他者を尊重することの困難にもつながる。コミュニケーションは人間対人間の関係の確立のプロセスである¹⁾。2年次の授業では、人間の尊重や理解に関する内容を取り入れ、自己尊重・他者尊重を培っていくことの必要性が示唆された。

3年では、到達すべき目標33項目中20項目が50%以上の到達率であり、「一緒に悩む」「考えの支援」「思いに目を向ける」「TPOにあった言葉」「感情の受け止め」「自己決定の尊重」「沈黙を待つ」など、対象者とのコミュニケーション技法の上達が進んでいることがわかった。これは、3年次の臨地実習により、多くの対象者に関わった経験から培われたものと考えられる。一方、下位項目は、「考えに沿う」「心情の理解」「壁をつくらない」「沈黙の理解」「わかりやすい説明」の、対象者との関わりの項目や、「指示の理解」「指導者への関わり」の、指導者との関わりによる項目、「偽らない態度」「自己尊重」「自分を知る」の、自己理解に関する項目であった。現状を把握することはできても、現象の意味を理解・解釈し言葉にすることが難しいことが考えられる。これは、「沈黙を待つ」72.9%に対し「沈黙の理解」39%であることから裏付けられる。臨地実習に関わる指導者・教員は、これらの事を理解し、学生の経験の言語化を促すとともに、解釈・理解を支援する必要性が示唆された。

4年では、到達すべき目標9項目中7項目が50%以上の到達率であり、最終学年としてコミュニケーション力の向上が評価できた。「苦手意識」「緊張をほぐす」「相手を理解し

た行動」「問題の要約」「思いを引き出す」「感情の代弁」など、対象者との相互性において必要となるコミュニケーション技法の項目であり、地域実習を経てさらに個々の対象者に深く関わった経験から得られたものと考えられる。一方、下位項目の、「スタッフへの関わり」「考えの伝達」は、チーム医療の一員として多職種との関わりの中で形成されるものと考えられる。統合実習の中で、学生もチームの一員として受け入れられ、自ら考え、行動できる場を与えられる経験を通し、職業人としての自覚を育む必要性が示唆された。

今回の結果は統合実習開始年度のものである。今後の結果を参考にし、実習の在り方を検討する必要がある。

2. 看護職に必要な表現力

1年では、「誤字脱字なく丁寧に書く」が低かった。レポート作成時には、繰り返し読み、書き直した後、確認したうえで提出することを強化することの必要性が示唆された。

2年では、「論点を明確にする」や「自分の意見を表現する力」が低かった。すべての学生に均等に発表の場を与え、自己表現できる機会を増やすことの必要性が示唆された。

3年では、「意見の折り合い」「役割の明確化」や「テーマの発見」が低かった。グループワークなどの機会を通して、個々の役割を明確にすると同時に、学生間で対等な態度で率直に意見を伝え合う学習形態が、さらに必要と考える。また、グループダイナミクスの中で、テーマの共有や課題を発見し、専門職として協議・調整できる力を強化していくことの必要性が示唆された。

4年では、「自分の考えに自信を持ち、堂々と伝える」や「課題解決に向けた将来展望を描く」が低かった。1年次からの授業や実習でのカンファレンスにおいて、各人が積極的に意見交換や情報共有ができるよう、教師側も意識して言葉で伝えていくことが必要であ

ると考える。さらに、学生と教師の関係において、菱沼²⁾は、教師がもつ絶対的パワーが、学生を脅かすと述べている。学生の表現力を育てるためには、教師の関わりとして、学生が自己表現できる環境を調整していくことが重要であり、学生の特徴を捉え、学生のできる力を引き出していくことの必要性が示唆された。

3. 看護職に必要な協働実践力

学年が進むにつれ、協働実践力も修得されていた。しかし、各学年次に到達すべき目標項目において、到達率が80%を越す項目があるのは4年次のみであった。協働実践力の学生評価が4年次で飛躍的に高くなるのは、各学年次の積み重ねに加え、卒業論文作成にて協働実践を行うためと考えられる。

4年次では、「国際医療の理解」が一番低く、同様に「国内医療の理解」も低かった。国内外の医療の機能・役割を理解することは、4年次でも一部学生を除いては困難なようであった。また「システムの動向」は、設問が「保健・医療・福祉・教育の動向と課題を理解することができる」であり、他の下位項目とともに、設問内容が他設問に比較し範囲が広く、学生が「理解した」と答えづらいと考えられる。これらの力をつけるためには、シラバスの確認や検討が必要である。

【ま と め】

看護職に必要なコミュニケーション力では、1・2年次において人間関係形成の基本となる姿勢や態度を身に付け、3・4年次では、周囲の人々との人間関係の構築に必要な力を身に付けていた。

看護職に必要な表現力では、文章表現にお

いては、丁寧に書くことから論点を明らかにし、論理的な文章構成による表現へと発展していた。言語表現においては、自己の考えの表現から他を理解した表現へと発展をしていた。

看護職に必要な協働実践力では、協働に関する基本知識から協働するための仕組みや役割理解へと発展をしていた。これらの発展は、知識習得や実習などによる経験を重ね、自己の状況を振り返り評価することで力を得たとと言える。

今回の調査では、多くの学生が4年次には基礎的な能力を身に付けられていることが明らかになった。今後は、基礎的な能力を基盤とした応用力を身に付けさせることの必要性が示唆された。これらの結果を基に、教育活動に寄与させたい。

【謝 辞】

今回、「看護職に必要なコミュニケーション力・表現力・協働実践力」の到達状況を明らかにするにあたり、オンラインでの自己評価入力にご協力頂きました高知大学医学部看護学科の学生の皆様にお礼申し上げます。

【文 献】

- 1) Joyce Travelbee: *Interpersonal Aspects of Nursing (Edition 2)*. 長谷川浩, 藤枝智子 訳(1974). *トラベルビー人間対人間の看護*. 131-135. 医学書院. 2003
- 2) 菱沼典子: 学生がコミュニケーション能力を育成できる環境をつくる. *看護教育*. 53 (10). 838-843. 2001